

新潟県立長岡聾学校

きこえ通信

令和5年度 第5号

当校 HP にも掲載中!
⇒R4~の通級便り、
R5.4~のきこえ通信

新潟県立長岡聾学校通級指導教室
〒940-0093 長岡市水道町2-1-13
Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)
*不在の場合5コール程で代表に自動で繋がります。
FAX 0258-39-5665
e-mail school@nagaokarou.nein.ed.jp
発行: 令和5年8・9月

まだまだ暑い夏、体調に気を付けて!

いつまで続く、この暑さ!夏休み中は、小学生は陸上大会の練習、中学生高校生は部活や大会、体育祭の準備、体験活動などで慌ただしく、あまりゆっくりする時間がなかったかもしれません。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、お祭りやレジャーなどが復活しました。多少気持ちの切り替えができ、元気に夏休み後の学校生活を始めているでしょうか。

夏休み後、すぐにテストや体育祭などの行事がある学校が多いです。適宜休養を取りながら、取り組んでほしいと思います。まだまだ暑い日が続きます。睡眠や栄養、感染対策、熱中症対策など体調に気を付けて、実力を発揮してほしいと思います。

補聴器を使用している人は、引き続き、汗などのメンテナンスに気を付けましょう。
難聴のある児童生徒の体育館や屋外での活動への配慮は「きこえ通信」今年度第2号
をご参照ください。



合唱コンクールなどへの取り組みについて

中学校では体育祭が終わると10月、11月に予定されている合唱コンクールの練習が始まる学校も多いと思います。小学校も学校によっては音楽発表があると思います。きこえにくさがある児童生徒がいる場合、本人の状態によって、次のような支援があるとありがたいです。他の児童生徒にとってもあると助かる支援です。

- ①歌、楽器演奏の出だしのタイミングが指揮などで分かるようにする。
- ②周囲の生徒から、アイコンタクトや身振りなどの合図を出してもらう。
- ③マスクを付けないのであれば、指揮者の口元が見える場所にいる。
- ④同じ楽器や役割の生徒が近くにいる。または本人から見える場所にいる。



☆全てこれと同じにする必要はありませんが、デリケートな部分でもあり、練習の様子を見たり、本人と相談したりして、一人一人のニーズや各学校の実情に合わせて支援をお願いいたします。リズムや音程、速度、声の大きさなどの調整が難しい生徒もいるので、本人がストレスにならないようにしていただくとありがたいです。ご相談がありましたら当校へご連絡ください。参照:「難聴をもつ小中高校生の学校生活で大切なこと」(岡山大学病院 耳鼻咽喉科)*難聴通級生徒在籍の中学校は、配付した学校もあります。↓下記より

<https://ousar.lib.okayama->

[u.ac.jp/files/public/6/61938/20210524182757709102/%E9%9B%A3%E8%81%B4%E3%83%91](https://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/6/61938/20210524182757709102/%E9%9B%A3%E8%81%B4%E3%83%91)

保護者会

7月10日に当校通級と千手小学校のきこえの教室を利用する保護者の方で、保護者会を実施しました。当校の難聴のある職員が同席し、資料の読み合わせの後に懇談を行いました。「初めて難聴のある子の保護者の方に会った」という方がほとんどでした。人数はあまり多くありませんでしたが、子育てのこと、当校の難聴のある職員が子どもの時にどうしていたか、など話は尽きませんでした。どの方も終わってからも話し足りない様子でした。「楽しかった」、「また参加したい」との声が聞かれました。

先輩の話を聞く会

8月23日に「先輩の話を聞く会」を実施しました。難聴のある大学院生の方からオンライン(zoom)でお話ししていただきました。当校通級生徒、当校通級卒業生の高校生、千手小学校きこえの教室の児童、保護者の方が参加しました。難聴がある人は少なく、難聴がある子どもたちはロールモデルを見つけにくいのが現状です。大学院生の方からは、難聴が分かったときのこと、努力してきたこと、進路で悩んだことなどを詳しく話していただきました。また、参加した人からもたくさん質問が出て、丁寧に答えていただきました。参加した人たちからは「これからの学校生活に生かしたい」、「尊敬します。自分も悔いのないようにしたい」、「言葉が心に響いた」などの感想がありました。児童生徒の皆さんは、お話を聞いてこれからの見通しがもてたようです。



オンラインで一人ずつ質問しました。

「防災の日」に関連して

近頃は、大雨や地震が多く心配です。難聴がある人の場合、災害時により困難さを感じる場合があります。事前に次のような準備をしておくことが望ましいと思います。

- ・事前に非常持ち出し品を用意する。補聴器に関連するもの(補聴器、電池、乾燥ケースなど)、筆談用メモやスマホなど情報収集、伝達に関するものは大切です。
*右図参照
- ・事前に避難場所を家族で確認する。

和歌山県新宮市
毎日新聞記事より
*聞こえにくい
人が全員手話
を使うわけではあり
ません。



どんなときにもコミュニケーションできるよう、非常用持ち出し品を確認しましょう。 チェック

<input type="checkbox"/> 補聴器	<input type="checkbox"/> 補聴器用電池	<input type="checkbox"/> スマートフォン	<input type="checkbox"/> 充電器	<input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 指ブザー
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ヘルプカード	<input type="checkbox"/> 盲がい手帳	<input type="checkbox"/> 点字手帳	<input type="checkbox"/> 持ちのくすり	<input type="checkbox"/> メガネ ルーペ
<input type="checkbox"/> バンダナ・ビブス					

長野県 HP より
他の自治体も作成しています。

東日本大震災等の時には、「暗いと表示などの見える情報が得られない」、「食料品配付のお知らせが聞こえなくてももらえなかった」などの大変な状況があったようです。また「地震は分かったけど津波の音が聞こえず、気にかけてくれている近所の人と一緒に逃げてくれて助かった」ということもあったそうです。自分が「きこえにくい」ことの意味表示に抵抗があるかもしれませんが、他の人に知らせておくことで、自分が困らないようになると思います。将来一人暮らしをする人もいるので、家族以外の自分の理解者を増やすことも大切です。